

救急医療体制について

**問** 医師不足により御前崎総合病院は、救急医療協力申出機関として引き続き機能するかどうか、又近隣病院との連携や役割が果たせるのかどうか

**答** 来年1月以降は、内科系疾患の患者の時間外・救急医療ができない以上、救急の指定は当面返上するしかないと考えております。日勤帯は内科外来、救急は通常どおり行っており、他の診療科目については二次救急の患者を従来どおり診療しているよう考えております。

掛川、菊川、榛原の近隣病院にも、医師不足により一病院ですべての診療科目をカバーすることはできず、お互いが受け持つという病院間の連携が機能しており、当院でも病院連携による機能分担をさらに進めていく必要があると考えております。

**問** 患者を一刻も早く近くの病院に搬送することが救命上重要であります。救急医療への対策は

**答** 救急車で搬送されてくる二次医療の患者さんについては、内科を除いた当院で対応可能な診療科（脳神経外科、外科、消化器科、整形外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、小児科、皮膚科）の患者さんは積極的に受け入れ、内科疾患の患者さんについては、救急搬送を受け持つ消防署に対し、専門内科医のいる近くの病院へ搬送をお願いし、近隣病院の各病院長には患者を診察し、必要な場合には入院させていただくよう依頼してあります。現在の医療状況においては、一刻も早く専門医のいる病院に患者を搬送する方が、より現実的であり、適切であると考えます。

アスベスト問題について

**問** アスベストによって起きる肺がんや中皮腫といった健康被害が社会問題化しています。このようなアスベストが市内の公共施設に使用されているのか、調査結果を公表願います。また、どのように対処したのか、今後どのように対処していくのか、対策について公表は

**答** 7月にまず各施設管理担当課におきまして、目視により吹きつけアスベストが使用されている可能性があるか調査いたしました。その結果、今回分析調査を必要とする施設が15カ所あり、分析調査専門業者2社に調査を発注いたしました。その結果、浜岡東小学校体育館のステージ横の天井から含有率1・2%のア

スベストが検出されました。この件につきましては、現在のところ飛散性は有りませんので冬休みに再度全体の分析調査をし、今後の対応を考慮しております。なお、第一小学校の浄化槽ポンプ室は、既に平成15年度の調査でアスベスト成分の含有が判明したため、ポンプ室をその後閉鎖しておりますが、12月補正で解体費用の予算をお願いし、冬休みに解体する予定です。このほか分析調査した施設につきましては、アスベストは検出されておりました。

